

今週（1月14日から1月17日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、日銀当座預金残高が約398兆円から始まり、15日の源泉税揚げ、16日の5Y債の発行を受け、当座預金残高は若干減少し、17日は約397兆円となった。無担保コールO/N物は、14日は積み期間終盤ということもあって、国内勢を中心に▲0.02～▲0.01%と高いレンジでの出会いとなった。積み最終日となる15日は着地に向けた調達ニーズが強まり、▲0.01～▲0.005%のレンジでの出会いが中心となった。新しい積み期となった16日は調達レートが低下し、▲0.075～▲0.03%と幅広いレンジでの出会いとなった。17日は▲0.065～▲0.005%のレンジでの出会いとなり、強めの地合いとなった。ターム物に関しては、地銀業態を中心にショートターム物で▲0.02%近辺での出会いが散見された。

●レポ市場

今週のGC O/N物は、概ね▲0.085～▲0.050%程度の水準で推移した。週の後半にかけてレートを切り上げた。SC個別銘柄では、5年136～142、10年336～357、20年166～171、30年59～65、40年9～12などカレント近辺の銘柄にビッドの出入りが多く見られた。

●短国市場

今週の短国市場は、短国買入オペで市場予想を上回る増額があったものの、GCレートが上昇傾向となったこともあり、週を通して横ばい圏での推移となった。

15日に実施された短国買入オペは、市場予想を上回る10,000億円でオファーされた。平均落札利回較差+0.021%、按分落札利回較差+0.011%と、売り急ぐ動きは見られず、落ち着いた結果となった。

16日に実施された1Y物の入札は、WI取引において▲0.135～▲0.124%で出合う展開となったものの、平均落札利回▲0.1254%、按分落札利回▲0.1215%と、WI取引ほどの強さは見られない結果となった。結果発表後のセカンダリーマーケットにおいては、▲0.137～▲0.130%出会いと強含みで推移した。

17日に実施された3M物の入札はWI取引において▲0.122～▲0.120%で出合う中、平均落札利回▲0.1170%、按分落札利回▲0.1122%と、これもWI取引ほどの強さは見られない結果となった。結果発表後のセカンダリーマーケットにおいては、▲0.129～▲0.124%出会いと強含みでの推移となった。

●CP市場

今週は、20日スタートの発行もあり、鉄鋼、卸売、ゴム、不動産、小売、建設等の幅広い業態の大型発行があり、活況なマーケットとなった。週間の金額ベースで見ると、5,100億円程度の償還に対して、7,200億円程度の発行と、発行超の市場となった。年初からの事業法人の発行再開の勢いが市場を牽引し、15日時点の残高は、先月中旬に匹敵する22兆円台に到達している。発行レートについては、引き続きマイナスの強い買いがあまり見られず、0%付近の出会いが中心となっている。

15日にはCP等買入オペが、2,500億円でオファーされた。市場残高が高水準であることや、今月のオペは2回しかないことから、按分レートは、前回同様に当面の上限と考えられる▲0.001%となった。

●短期金融市場関連指標

	日経平均 (円)	新発10年物 国債利回り (%)	為替 (ドル/円中心相場)	無担保コールO/N (加重平均・%)	東京レポレート(翌日物・ T+1スタート・%)	日銀当座預金残高 (億円)
1/13 (月)						
1/14 (火)	24,025.17	0.010	110.08	△ 0.028	△ 0.085	3,982,400
1/15 (水)	23,916.58	0.005	109.93	△ 0.016	△ 0.071	3,978,400
1/16 (木)	23,933.13	0.005	109.93	△ 0.042	△ 0.072	3,965,700
1/17 (金)	24,041.26	△ 0.005	110.20	△ 0.023	△ 0.057	3,970,800

来週（1月20日から1月24日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
1/20 (月)	日銀政策委・金融政策決定会合(1日目 14:00~)				New York祝日 (Martin L.King Jr.'s Day)
1/21 (火)	日銀政策委・金融政策決定会合(2日目 9:00~) 日銀総裁定例会見(15:30) 経済・物価情勢の展望				
1/22 (水)	月例経済報告 (内閣府)	流動性供給 6,000億円 1/23発行	交付税借入 10,500億円 1/30借入		12月の米中古住宅販売
1/23 (木)	12月の貿易統計(財務省 8:50) 11月の景気動向指数改訂状況(内閣府 14:00)				ECB定例理事会(金融政策発表)
1/24 (金)	金融政策決定会合議事要旨(12月18・19日分 8:50) 12月の全国消費者物価指数(CPI 総務省 8:30)	TB3M 43,400億円 1/27発行	流動性供給 4,000億円 1/27発行		

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
1/20 (月)	1,900	▲ 11,100	▲ 9,200	CP買入 ETF買入 国債補完	▲ 200 1,500	2,500 100	3,900	▲ 5,300	TB3M発行▲43400償還42100 TB1Y発行▲19000償還16100 20Y発行▲9000 変動15Y償還7900 エネルギー対策借入▲5000期日5000
1/21 (火)	1,000	1,000	2,000				0	2,000	
1/22 (水)	1,000	1,000	2,000				0	2,000	
1/23 (木)	0	▲ 6,000	▲ 6,000				0	▲ 6,000	流動性供給▲6000
1/24 (金)	▲ 1,000	0	▲ 1,000				0	▲ 1,000	交付税借入▲10500期日10500
週間合計	2,900	▲ 15,100	▲ 12,200	—	1,300	2,600	3,900	▲ 8,300	

1/20は日銀予想、1/21以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、積みの序盤であるものの、今積み期間は2月14日の年定時払いまで資金需給上の大きな余剰日がほとんど無く、揚げ要因が多いことから、一定の調達ニーズが見込まれ、無担保コールO/N物加重平均レートは高水準での推移が予想される。レボ市場は、GC T/Nは参加者のスタンスに大きな変化がなければ、引き続きレートは高めの推移が続くと考えられる。短期市場は、24日に3M物の入札が実施予定となっている。需給が改善する中、買入オペのオフア額を含め、市場動向が注目される。買入オペは22日の実施が見込まれる。CP市場は、引き続き発行環境が良好であることから、市場残高がどの程度まで増加するかに注目が集まる。

主要なイベントとしては、国内では20～21日の金融政策決定会合、24日に12月の全国CPIの公表、海外では23日にECB定例理事会が予定されている。

◆本資料は信頼できると思われる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされようようお願い申し上げます。
◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目録見書をよくお読みください。

セントラル短資株式会社 登録金融機関関東財務局長（登金）第526号 日本証券業協会加入